第５課　神のために生きる

【暗唱聖句】

「主の目は正しい者に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。主の顔は悪事を働く者に対して向けられる。」第一ペテロ3:12

【今週のテーマ】

前回に続き、多くの困難の中にありながらも、クリスチャンとしていかに生きるかを学びます。

【日曜日　心を一つに】

「終わりに、皆心を一つに、同情し合い、兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい」第一ペテロ3:8

8節に終わりにという言葉が書かれてあります。これまでのところで、一通り伝えるべきことを伝えた後に、最後にもう一つ大切なことを付け加えようと思ったのでしょう。しかし、最後にと言ってから5章まで続くわけですから、次から次へと言い足りないことが出てきたのでしょう。

ペテロは大切なこととして付け加えたのは、「皆心を一つに」にするということでした。心を一つにすることは簡単なことではありません。だから、ペテロもこのように言う必要があったのでしょう。しかし、主が働くとき、わたしたちの心は不思議なくらい一つになります。お互いが同情と兄弟愛に溢れ、憐みの心が沸き上がり、謙虚であろうとします。心が一つになるということは神様の教会の中に起こされる最も麗しい奇跡です。悪魔をそれを壊そうとします。

第一コリント12章にキリストの体は一つであり、そのキリストの体を建てあげていくために、わたしたちはある人は手として、また、ある人は足として存在しているのだと書かれてあります。わたしたちに与えられた賜物は異なりますので、その働きも異なりますが、目的は常に同じであります。イエス様にすべてが集約していくとき、1つの体に属していることがわかることでしょう。

【月曜日　肉において苦しむ】

「キリストも、罪のためにただ一度苦しまれました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです」第一ペテロ3:18

キリストはわたしたちを神様のもとに導くために、ただ一度苦しまれました。つまり十字架で死に渡されました。ここで一度と強調されているのは、贖いのための業はすべて完了したということを現しています。

「この水で前もって表された洗礼は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。洗礼は、肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい良心を願い求めることです」第一ペテロ3:21

神様のもとへと導かれたわたしたちは洗礼を受けて、公に神様への信仰を表明しましたが、洗礼によって肉の汚れを取り除く効果があるわけではありません。洗礼とは神様に正しい良心を願い求める行為だと言います。正しい良心とは、つまり神様の御心のことです、わたしたちは神様の御心を知りたいと願い、そしてその御心を生きたいと願って洗礼を受けクリスチャンとなったわけです。このような決心を神様は本当に喜んで下さり、祝福して下さいます。だからそれにふさわしく生きたいものです。ペテロはこう続けます。

「キリストは肉に苦しみをお受けになったのですから、あなたがたも同じ心構えで武装しなさい。肉に苦しみを受けた者は、罪とのかかわりを絶った者なのです。それは、もはや人間の欲望にではなく神の御心に従って、肉における残りの生涯を生きるようになるためです。」第一ペテロ4:1、2

わたしたちにキリストと同じ心構えで武装せよと言います。わたしたちは洗礼によって霊的にキリストと共に十字架で葬られ、キリストの苦しみを味わい、そして新しい命に復活したものです。これはわたしたちが罪とのかかわりを絶ったということを意味しています。すなわち、人間の欲望にではなく神の御心に従って生きるものになったということです。

【火曜日　生まれ変わる】

「4:3 かつてあなたがたは、異邦人が好むようなことを行い、好色、情欲、泥酔、酒宴、暴飲、律法で禁じられている偶像礼拝などにふけっていたのですが、もうそれで十分です。4:4 あの者たちは、もはやあなたがたがそのようなひどい乱行に加わらなくなったので、不審に思い、そしるのです。4:5 彼らは、生きている者と死んだ者とを裁こうとしておられる方に、申し開きをしなければなりません。4:6 死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、人間の見方からすれば、肉において裁かれて死んだようでも、神との関係で、霊において生きるようになるためなのです」第一ペテロ4:3～6

ペテロはクリスチャンになる前に行っていたような罪に生活に対して、そこから離れるようにと言います。古い人に死に新しい命に復活したのだから、それにふさわしく生きるようにということです。そうすると、仲間たちは不信に思い、そしるだろうけれども、彼らは裁き主の前で申し開きをしなければならないと言います。主は裁き主であり、生きている人も、すでに死んでいる人もすべて等しく裁かれます。すでに死んでいる人をも等しく裁かれるのは、彼らが生きていたときにも福音は語られており、恵みを知る機会が当たられていたからです。

【水曜日　肉の罪】

第一ペテロ4:3には性的な罪である「好色や情欲」を避けるようにと書かれてあります。もともと神様は祝福として男と女が交わり与えられました。

「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりはしなかった」創世記2:24，25

しかし、罪が侵入し、神様が与えてくださった男女の性的な祝福を、人間が間違った方法で用いるようになってしまいました。その結果起こった悲劇は世界中至るどころで起こっています。

【木曜日　愛はすべてを覆う】

「万物の終わりが迫っています。だから、思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。」第一ペテロ4:7

ペテロは万物の終わりが切迫しているという緊張感をもって生きていました。迫害の中にあって、主が救いに来てくださる再臨に強い希望を持っていたことがわかります。そのような状況にあるから、「思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい」と言います。そして、さらにペテロはこう続けます。

「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです」第一ペテロ4:8

罪を暴露するのは簡単です。しかし、わたしたちはお互いに愛を持って罪を覆いあうのです。それはイエス様ご自身がわたしたちの罪を覆って下さったからです。